

【事例①】 自閉症の児童が見通しをもって参加できる直接交流

事例の概要

【知的障害特別支援学校小学部5年生 Aさん】

自閉症の児童・生徒は障害の特性により、普段経験したことのない活動やスケジュール、慣れない場所には見通しがもちにくい傾向があります。Aさんも進級するにつれて交流内容が複雑になってきたため、見通しがもちにくくなり、地域指定校へ向かう道の途中で座り込んで、地域指定校へ行くことが難しくなっていました。

そこで、本事例では、Aさんが交流へ見通しがもてるように、時間的に短く、毎回の流れが同じである「帰りの会」に参加することとしました。地域指定校へ行く前には、特別支援学校の担任教員がAさんに対し、地域指定校の「帰りの会」の流れを視覚的に示し、見通しをもたせるようにしました。

また、地域指定校では、短い時間であっても、子供同士がふれあうことができるよう、「帰りの会」においてみんなで簡単なゲームを楽しめるようにしました。

「帰りの会」での交流を重ねたことにより、Aさんは見通しをもって地域指定校へ行くことができるようになり、児童との交流も深まりました。

交流活動への期待

【地域指定校の児童への期待】

- Aさんへの関わり方を知り、交流するときには積極的に関わることができるようになってほしい。

【Aさんへの期待】

- 活動へ見通しをもって、落ち着いて「帰りの会」に参加できるようになってほしい。

期待する姿を引き出すための工夫

特別支援学校では

■ 見通しをもちやすい交流の提案

保護者と相談し、Aさんが見通しをもちやすいように、「帰りの会」に参加して家に帰る流れを設定することを、地域指定校へ提案しました。

■ スケジュールの視覚的な確認

Aさんが見通しをもてるように、交流に出かける前に、地域指定校の「帰りの会」の流れを視覚的に伝えるようにしました。

小学校では

■ 学級における交流の周知

特別支援学校からの提案を受け、Aさんが「帰りの会」に参加することを伝え、児童の期待感を高めるようにしました。

■ 子供同士のふれあう取組の設定

短い時間であっても、子供同士がふれあう場面が増えるように、簡単なゲームを設定しました。ゲームの内容は、子供たちに考えさせるようにしました。

交流の様子

■ 交流へ向かうときのAさんの様子

- 特別支援学校の学級担任とスケジュールを確認すると、自分で一つずつ確認しながら、流れを覚えていました。
- 最初は見通しがもちにくかったAさんですが、何回か行くと、落ち着いて地域指定校へ行くことができるようになりました。

12月10日(月)	
1	ワザと しょうがっこうに いく
2	ABC
3	ワザと トイレに いく
4	せんせい、かえりのかいを する
5	ワザと かえる

■ 交流活動の様子

- 「帰りの会」に参加するためにAさんが教室に到着すると、学級のみんながAさんの名前を呼んで歓迎してくれました。
- 簡単なゲームを行う場面では、Aさんはみんなと同じように振る舞うことが難しいときもありますが、楽しそうなみんなの顔を見て、Aさんも笑顔を浮かべていました。
- 「帰りの会」が終わると、学級のみんなはAさんの名前を呼びながら、優しくハイタッチして一緒に玄関に向かうことが、毎回の流れとなりました。
- 事前に「理解推進授業」を行っていたこともあり、地域指定校の子供たちは、Aさんへの関わり方を自分たちでいろいろと考える様子が見られました。

交流の成果

本交流事例では、Aさんが見通しをもてるように直接交流の取組を設定したことにより、以下のような成果がありました。

- (1) 内容が分かりやすく、短時間で終了する「帰りの会」での交流を設定したことにより、Aさんは見通しをもって、落ち着いて交流に参加することができました。
- (2) 子供同士がゲーム体験を共有してふれあう場面があったことで、Aさんは楽しそうなみんなの顔を見て、自分も笑顔を浮かべて楽しむことができました。
- (3) 事前に「理解推進授業」を行っていたこともあり、地域指定校の児童はAさんへの関わり方を考えながら交流することができました。
- (4) Aさんの保護者からは、以下のような感想が聞かれました。
 - ・ 交流する機会を帰りの会に変更してからは、地域指定校へ行く途中に座り込むことがなくなりました。私も安心してAの交流している姿を見ることができます。小学校のみんながAのことを自然に受け入れてくれて嬉しいです。



この事例から、自閉症の児童・生徒の場合、交流するたびに内容が異なる教科の授業への参加よりも、「帰りの会」のように、毎回内容が同じであり、短時間で終了するような場面の方が、落ち着いて活動できることが分かりました。

【事例②】事前打ち合わせ会を実施した直接交流

事例の概要

【知的障害特別支援学校小学部2年生 Bさん】

Bさんは、初めての場所では見通しがもてずに、緊張したり、怖がったりすることがあります。

そこで、本事例では、Bさんが安心して交流を行うことができるよう、Bさんと保護者、特別支援学校の教員、地域指定校の教員が「事前打ち合わせ会」を実施しました。また、打ち合わせ後に、Bさんが小学校の様子を知ることができるように、「校内探検」を行いました。

その後、地域指定校では、交流学級の担任が「事前打ち合わせ会」の内容をもとに、児童へBさんの紹介をしたり、学級活動の時間に交流内容やBさんへの関わり方などについて話し合いを行ったりしました。

交流の際には、地域指定校の児童が、Bさんが参加しやすいゲームを準備したり、Bさんのペースに合わせて関わったりすることができたため、Bさんは安心して地域指定校の児童と交流することができました。

交流活動への期待

【地域指定校の児童への期待】

- Bさんのことを知り、Bさんのペースを大切にしたい接し方ができるようになってほしい。

【Bさんへの期待】

- 初めての場所でも、怖がったりすることなく、地域指定校の児童と交流できるようになってほしい。

期待する姿を引き出すための工夫

特別支援学校では

■ 事前打ち合わせ会の実施

Bさんが直接交流に円滑に参加できるように、情報交換の場として「事前打ち合わせ会」を設定することを保護者や地域指定校へ提案しました。

■ 「校内探検」の提案

初めての場所が苦手なBさんの不安を軽減できるよう、「事前打ち合わせ会」の終了後に、Bさんが交流する学級の教室などを見学する「校内探検」の設定を依頼しました。

小学校では

■ 交流前の学級での話し合いの実施

学級活動の時間に、地域指定校の教員が児童へBさんのことを説明するとともに、交流内容やBさんへの関わり方を話し合う場を設定しました。